

計画期間：平成 25 年 4 月～平成 30 年 3 月（5 年）

．中心市街地全体に係る評価

1. 平成 25 年度終了時点（平成 26 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成 25 年 3 月に計画の認定を受け、「歴史・文化を感じ、訪れたい、住みつけたい城下町（まち）」をテーマとして掲げ、計画に基づいた各種事業に取り組んでいる。

平成 25 年度は、民間事業では、まちなか健康サポート事業や食のプロムナード整備事業、医師専用集合住宅整備事業などを実施し、それぞれ完成、オープンとなった。サービス付き高齢者向け住宅等整備事業についても、平成 26 年 10 月に工事着工する予定で準備を進めている。

一方、公共事業では、養護老人ホームときわ園の整備、防災公園である井口公園整備などの事業に着手している。また、長年の懸案であった津山駅周辺の整備についても、市民に愛着と誇りを持ってもらえる駅周辺の整備を目指し、平成 25 年 5 月に「津山駅周辺整備計画」を策定し、「城下町の風情が香る歴史と津山人との出会い」をデザインコンセプトとして設計を行い、平成 28 年度末の完成を目標に整備を進めている。

さらに、ソフト事業では、美作国建国 1300 年記念事業や、近畿・中国・四国 B - 1 グランプリ in 津山、まちなかシネマ実証実験事業などを実施するとともに、空き店舗対策事業の補助対象を、城東、城西地区にも広げ、新しい賑わいの創出を図ってきた。

人口減少と少子高齢化、空き地や空き家の増加などを考慮すれば、今後の中心市街地の活性化については、コンパクトなまちづくりを進める総合的かつ長期的な対策が必要と考えており、本市としては、引き続き、基本計画の事業の円滑な実施に努め、中心市街地の魅力再生と更なる活性化を図ってまいりたい。

2. 平成 25 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

月一回開催している本協議会の事務局会議（タウンマネジメント会議）において、中小企業基盤整備機構のアドバイザー等からの意見をいただきながら、津山市と本協議会との間で情報交換等を行っている。平成 25 年度については、にぎわいの創出として、津山の特徴ある食肉文化の情報発信等を行う「食のプロムナード整備事業」の第 1 号店である「津山肉ビル」、及び生活空間の充実を目的として、高齢者等の体力維持増進や多世代とのコミュニケーションを図るための施設を整備した「まちなか健康サポート事業」を官民連携で取り組んだ。こうした取り組みによって、多くの市民や商店街組合等から、街の雰囲気が変わりつつあるといった意見も頂いており、基本計画は概ね予定通り推進していると考えている。

．目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
人が集い賑わいを感じる「まち」	歩行者自転車通行量 (平日・休日の平均)	8,712 人 (H24)	9,200 人 (H29)	8,159 人 (H25)	-	
人が暮らしやすいと感じる「まち」	人口の年間社会動態 平均	16 人 (H19-23 の平均値)	±0 人 (H29)	4 人 (H25)	-	
歴史文化を感じる「まち」楽しむ「まち」	歴史文化関連施設 利用者数	176,508 人 (H23)	197,000 人 (H29)	178,919 人 (H25)	-	

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

歩行者自転車通行量については、調査時点において、主要事業である「サービス付き高齢者向け住宅等整備事業」「食のプロムナード整備事業」「まちなか健康サポート事業」が実施されていなかったこともあり、平成25年度の最新値は8,159人と基準値を下回る結果となったが、核事業についての進捗状況は順調であり、目標達成は可能であると見込んでいる。

人口の年間社会動態平均については、「医師専用集合住宅整備事業」の実施による影響もあり、平成25年度の最新値では、+4人と目標値を上回る数値となった。今後については、「サービス付き高齢者向け住宅等整備事業」や「養護老人ホーム整備事業」等の実施により、目標達成は可能であると見込んでいる。

歴史文化関連施設利用者数については、平成25年度の最新値では、178,919人と基準値（H23）を上回る数値で推移している。

今後は、「鶴山公園景観整備事業」や「城西まちづくり事業」を継続実施するとともに、「津山駅北口広場整備事業」を予定どおり進捗していくことにより、目標達成は可能であると見込んでいる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

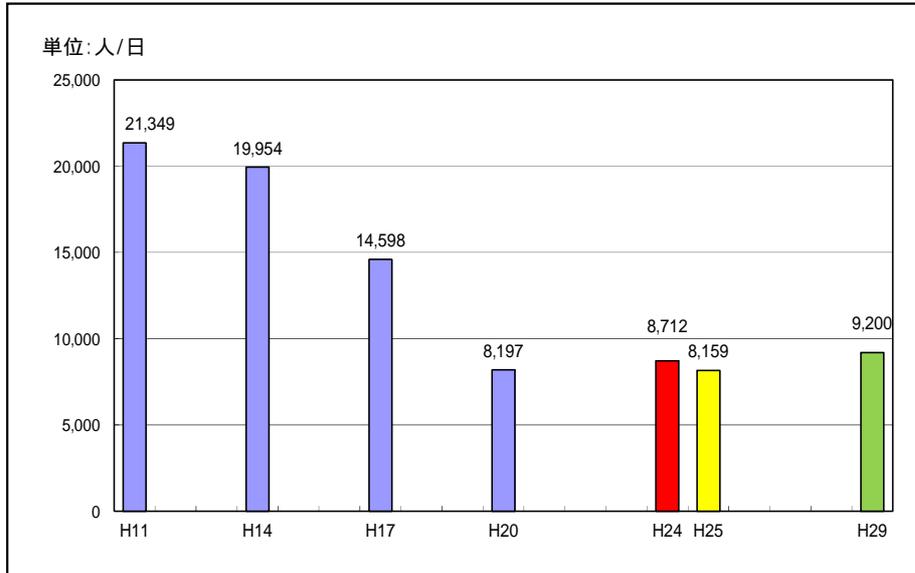
前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

・「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」

目標設定の考え方基本計画 P65～P76 参照

調査結果の推移



年	(人/日)
H24	8,712 (基準年値)
H25	8,159
H29	9,200 (目標値)

調査方法：これまでに中心市街地で経年的にデータを計測している9地点で目視・手動カウントする。

調査月：毎年8月、9月

調査主体：津山商工会議所

調査対象：調査地点を通過する歩行者、自転車

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・サービス付き高齢者向け住宅等整備事業（グリーンホスピタルサプライ(株)）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～平成27年度
事業概要	元魚町地内に高齢者向け住宅、ヘルスカフェレストラン等の商業施設、多目的ホール等を兼ね備えた複合ビルを整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成25年度に実施設計を行った。

・食のプロムナード整備事業（民間事業者、津山市中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～
事業概要	中心商店街の空き店舗を活用し、津山の食肉文化を活かした肉料理や地元産品を中心とした郷土料理を提供することにより「食のプロムナード」（散策路）を形成する。
事業効果及び進捗状況	平成26年3月に核となる店舗を整備。また、既存店舗等と連携したプロムナードマップを作成し情報発信を行った。

・まちなか健康サポート事業（(株)Globe fitness & studio）

事業完了時期	【済】平成25年度
事業概要	中心商店街の空き事務所を活用し、高齢者をはじめ、多世代の健康増進に資する施設を整備するもの。

事業効果及び進捗状況	平成25年10月に工事着工し、平成26年1月に完成、オープン。高齢者施設などからの新たな人の流れを生み、賑わいの創出を目指す。
------------	---

・まちなかシネマ実証実験事業（津山市）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～平成27年度
事業概要	アルネ・津山内の音楽文化ホールで映画館運営の事業化に向けた実証実験を実施するもの。
事業効果及び進捗状況	平成25年8月から事業を実施。また、近隣商店街と連携したクーポン券つきシネマパスポートを発行するなど、同事業での集客を商店街へ波及させるための取り組みを実施した。

・パワーアップ商業振興事業（津山市）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～
事業概要	商店街等が行う空き店舗対策事業等に対し、店舗改装費や家賃等の支援を行う。
事業効果及び進捗状況	平成25年度は、5店舗が出店し、衰退が激しい商店街の再生と回遊性の向上につながった。

・津山駅北口広場整備事業（津山市）

事業完了時期	【実施中】平成24年度～
事業概要	本市の玄関口である津山駅北口広場を整備し、交通結節点としての機能を向上させるとともに、駅周辺の賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	平成25年5月に、「津山駅周辺整備計画」を策定。「城下町の風情が香る歴史と津山人との出会い」をデザインコンセプトとして設計を行い、用地買収を進めている。

・養護老人ホーム整備事業（津山市）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～平成27年度
事業概要	老朽化している養護老人ホームを中心市街地に移転建て替えし、高齢者が安心して暮らせる空間を整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成25年6月に工事着工、平成26年7月完成を目指し、工事が進められている。

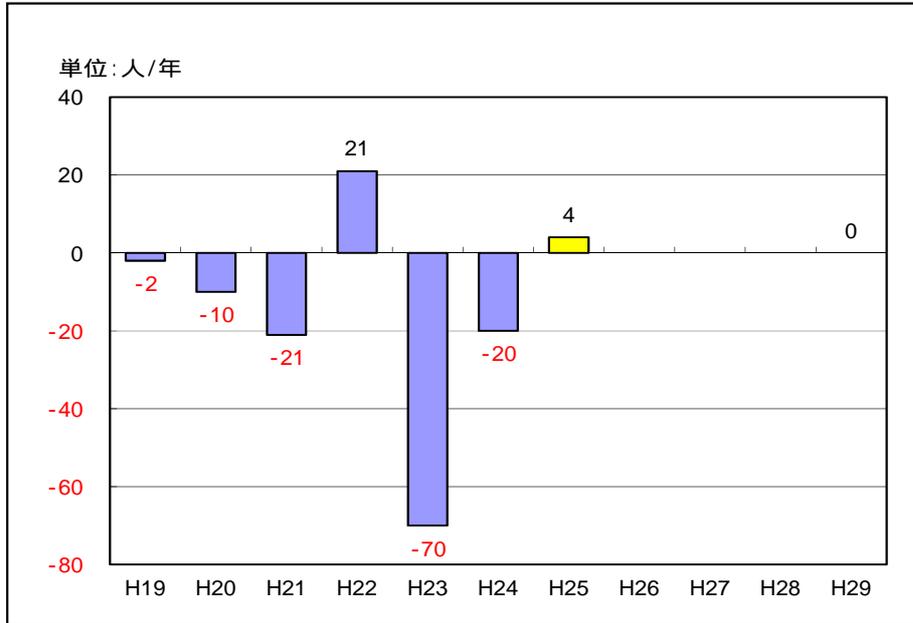
目標達成の見通し及び今後の対策

調査時点において、主要事業である「サービス付き高齢者向け住宅等整備事業」「食のプロムナード整備事業」「まちなか健康サポート事業」が実施されていなかったこともあり、平成25年度の最新値は基準値を下回る結果となったが、核となる事業についての進捗状況は順調であり、目標達成は可能と見込んでいる。今後は、現在実施中の「津山駅北口広場整備事業」や「養護老人ホーム整備事業」を、円滑に実施していくとともに、「まちなかシネマ実証実験事業」や

「パワーアップ商業振興事業」などを継続して実施していくことにより、中心市街地の回遊性を向上させ、さらに実績を伸ばしていきたいと考えている。

・「人口の年間社会動態平均」 目標設定の考え方基本計画 P76～P79 参照

調査結果の推移



年	(人/年)
H19-23 平均	-16 (基準年値)
H25	4
H29	±0 (目標値)

調査方法：住民基本台帳データに基づく

調査月：毎年4月～翌年3月

調査主体：津山市

調査対象：中心市街地の居住者

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・サービス付き高齢者向け住宅等整備事業（グリーンホスピタルサプライ(株)）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～平成27年度
事業概要	元魚町地内に高齢者向け住宅、ヘルスカフェレストラン等の商業施設、多目的ホール等を兼ね備えた複合ビルを整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成25年度に実施設計を行った。

・養護老人ホーム整備事業（津山市）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～平成27年度
事業概要	老朽化している養護老人ホームを中心市街地に移転建て替えし、高齢者が安心して暮らせる空間を整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成25年6月に工事着工、平成26年7月完成を目指し、工事が進められている。

・高齢者向け施設整備事業（民間事業者）

事業完了時期	【未】平成26年度～平成27年度
事業概要	遊休地となっている旧市営住宅跡地を売却し、街なか居住に資するための施設を整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成26年度に工事着工、平成27年度完成を目指し、準備が進められている。

・医師専用集合住宅整備事業（財津山慈風会）

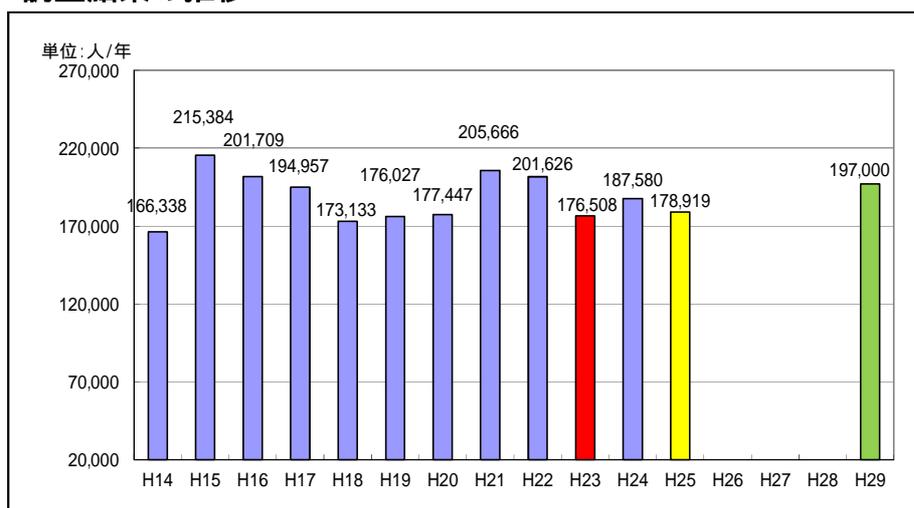
事業完了時期	【済】平成25年度
事業概要	県北の医師不足の解消と街なか居住の推進のため、単身赴任の医師専用の集合住宅を整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成26年3月に単身赴任者用の住宅（25室）が完成。街なかの環境生活の整備と利便性の向上に寄与している。

目標達成の見通し及び今後の対策

平成25年度の最新値は、目標を上回る結果となっている。主要事業については、概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能と見込んでいる。今後については、「サービス付き高齢者向け住宅等整備事業」「養護老人ホーム整備事業」「高齢者向け施設整備事業」を、円滑に実施していくことで、中心市街地が居住の場として魅力的な空間となるように努め、街なかからの転出を抑制し、転入を促進していく。

・「歴史文化関連施設利用者数」 目標設定の考え方基本計画 P79～P83 参照

調査結果の推移



年	(人/年)
H23	176,508 (基準年値)
H25	178,919
H29	197,000 (目標値)

調査方法：施設（7施設）ごとに日常的に計測し、年間利用者数を集計

調査月：毎年4月

調査主体：津山市

調査対象：津山城跡（鶴山公園）、箕作阮甫旧宅、城東むかし町家、作州城東屋敷、作州民芸館、津山郷土博物館、観光交流センター（津山駅観光案内所）の7施設

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・鶴山公園景観整備事業（津山市）

事業完了時期	【実施中】平成24年度～平成27年度
事業概要	津山城跡（鶴山公園）の石垣の整備及び桜の植栽等を行い、景観を向上させる。
事業効果及び進捗状況	平成25年度は、天守閣跡周辺の石垣の整備等を実施し、景観整備に取り組むとともに、美作国建国1300年記念事業や近畿・中国・四国B-1グランプリ in 津山などのイベントの実施により、入場者数の増加に寄与したと見込んでいる。

・津山駅北口広場整備事業（津山市）

事業完了時期	【実施中】平成24年度～
事業概要	本市の玄関口である津山駅北口広場を整備し、利便性、快適性を向上させるとともに、既存の観光案内所についても機能拡充を図る。
事業効果及び進捗状況	平成25年5月に、「津山駅周辺整備計画」を策定。「城下町の風情が香る歴史と津山人との出会い」をデザインコンセプトとして設計を行い、用地買収を進めている。

・城西まちづくり事業（津山市）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～
事業概要	本市の城西地区のまちづくり協議会によるコミュニティ活動への支援するもの。
事業効果及び進捗状況	年1回継続的に実施している「城西まるごと博物館」や、毎月実施している「野菜と魚の市」などのコミュニティ活動により、来街者の増加に寄与したと見込んでいる。

目標達成の見通し及び今後の対策

平成25年度の最新値は、基準値を上回る結果となっているが、津山城跡（鶴山公園）での最大のイベントである「津山さくらまつり」での悪天候が影響し、前年度（平成24年度）との比較では、8,661人の減少となっている。しかしながら、主要事業については順調に進捗しているため、目標達成は可能と見込んでいる。今後については、「津山駅北口広場整備事業」により駅前観光案内所の観光情報の充実や土産品の販売などによる、機能拡充を図るとともに、城西地区の「作州民芸館整備事業」の実施により、同施設の利便性を向上させ、利用者の増加を図ることで、目標の達成を目指していく。